

応用科学学会
パネル討論
2009年11月27日



科学技術と人間くささ

「人」「情報」に対してオープンなシステムが
科学技術を発展させる

群馬大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻
小林春夫



「人」に対してオープン

20年前、米国の大学に留学しての驚き

- 米国が当時戦争状態の国から
多くの若者を留学生として
(米国が)奨学金を出して受け入れている。
- 米国の大学の教授 様々な民族・人種、国籍の人たち
→ 「このシステムはフェアだ」
- 米国での日本人教会 誰にでもオープン
→ 新参加者が参加できる現地日本人コミュニティ
として機能



古き良き日本的発想

日本での官庁、大学、企業



「純血主義」、「人に対してオープンでない」
側面が残っている。

グローバル化の進展や海外進出で
国際競争力を保てるか？

「情報」への2つの戦略

- 山崎弘郎 東大名誉教授 -

- 情報を**クローズ**（守り）
 - 技術流出に細心の注意
 - 特許で権利を保護
- 情報を**オープン**（攻め）
 - ソフトウェアを公開、デファクトスタンダードをとる。
 - マイクロプロセッサ周辺回路
次期マイクロプロセッサ仕様を公開し
関連メーカーの協力を得る。
- 「守り」と「攻め」の両方が必要



大学の強み・取るべき戦略

- 大学は「人」「情報」に対してオープンな戦略をとることができる。
 - ➡ その分野で小さな組織(研究室)でも社会的に一定役割を果たせる。
- 制限を設けずに「人」を受け入れる。
 - ➡ 優秀な人が集まってくる。
- 発表・論文発表で「情報」を積極的に発信。
 - ➡ 講演会を開催する。
 - ➡ 関連情報が入ってくる。

「人」「情報」にオープンなシステムは 繁栄する

イスラエル地区： キリスト教、イスラム教、ユダヤ教

死海：湖面が海より低い。湖水が流れ出さない。
塩分が高く、植物・魚はほとんど生きられない。

ガリラヤ湖：湖水が河となり流れ出す。
まわりは豊かな緑で花が咲き乱れている。



ガリラヤ湖